

抄 録

第57回鹿児島県公衆衛生学会口頭発表

鹿児島県におけるつつが虫病及び日本紅斑熱について
—平成23年度から3年間の調査研究より—

御供田睦代 岩元 由佳 濱田 結花¹
濱田まどか² 石谷 完二 岩切 忠文³
福盛 順子⁴

第57回鹿児島県公衆衛生学会
平成27年 5月22日 鹿児島市

つつが虫病及び日本紅斑熱は、『感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律』において四類感染症に分類されるダニ媒介性疾患である。

鹿児島県の患者報告数は、2013年のつつが虫病患者が、38名（全国339名）で全国1位、日本紅斑熱患者は、14名（全国175名）で全国5位であった。

つつが虫病患者の発生は県内全域にみられ、日本紅斑熱の患者発生は、大隅地域に偏在しているといわれているが、離島を含め患者の発生域は拡大しつつある。

しかしながら、つつが虫病や日本紅斑熱の宿主とされるツツガムシやマダニの分布調査が、近年、実施されていない。また、病原体については、患者血液及び痂皮からの病原体検出についての検討やリケッチアの患者分離株が残っていないことから、患者血液から、リケッチアを分離し、鹿児島固有株として検査に役立てるため、2011～2013年度に調査研究を実施した。

- 1 県立大島病院 2 保健福祉部健康増進課
3 南薩地域振興局 4 退職

ノロウイルスによる食中毒事例について

岩元 由佳 御供田睦代 中堂園文子
穂積 和佳 石谷 完二 岩切 忠文¹
福盛 順子² 魚住 太志³ 西 宣行

第57回鹿児島県公衆衛生学会
平成27年 5月22日 鹿児島市

ノロウイルスは、冬期におけるウイルス性食中毒の主要な病原体であり、幼児から高齢者まで幅広い年齢層に感染して胃腸炎症状を引き起こす。

2014年12月31日、医療機関から保健所へ食中毒疑いの届け出があった。届け出有症者の共通食は29日及び30日の2施設の飲食店が該当した。両施設を調査した結果、29日の飲食店で会食した9グループ51名中26名が30日から下痢、嘔吐等の食中毒様症状を示した。潜伏期間は8～46時間で、24～40時間をピークとしていた。

今回の事例では、有症者の共通食は当該飲食店が29日提供した食事に限られたこと、有症者の臨床症状（下痢、嘔吐等）がほぼ共通していたこと、有症者及び調理従事者の便からノロウイルスGⅡが検出されたこと、有症者発生数（流行曲線）がノロウイルスによる食中毒の特徴と一致したことから、ノロウイルスによる食中毒とされた。

- 1 南薩地域振興局 2 退職 3 始良・伊佐地域振興局

食中毒疑い事例から検出した *Kudoa iwatai* の一事例

中堂園文子 御供田睦代 岩元 由佳
穂積 和佳 石谷 完二 岩切 忠文¹
福盛 順子² 西 宣行 魚住 太志³

第57回鹿児島県公衆衛生学会
平成27年 5月22日 鹿児島市

クドアはミクソゾア門、粘液胞子虫綱、多殻目、クドア属に分類され、極嚢を有する胞子を多数形成する寄生虫である。2011年6月17日付食安発0617第3号により、*Kudoa septempunctata*が起因すると考えられる有症事例について食中毒事例として取り扱うこととされた。

2014年11月19日、K市内の医療機関より保健所に食中

毒疑いの届け出があった。有症者の主症状は嘔吐，下痢であり，潜伏時間は2~16時間であった。当センターに保存食品として提出されたインダイの切り身について鏡検を行ったところ，4つの極嚢をもつ孢子が多数確認された。公定法に基づくリアルタイムPCRでは陰性となったが，Matsukaneらの方法に基づいたPCRを行い，シーケンス解析を行ったところ，*Kudoa iwatai*に最も近縁となった。

本事例は*Kudoa iwatai*の病原性が不明であることや，疫学調査の結果等から有症事例となったが，県外においても*Kudoa septempunctata*以外の有症事例も報告されていることから，今後検討していく必要があると考えられた。

1 南薩地域振興局 2 退職 3 始良・伊佐地域振興局

鹿児島県における微小粒子状物質 (PM2.5) の状況について

福田 哲也 江下 聡美 東小菌卓志
肥後さより¹ 満留 裕己² 福盛 順子³

第57回鹿児島県公衆衛生学会
平成27年 5月22日 鹿児島市

微小粒子状物質（以下「PM2.5」という）は粒径2.5μm以下の微小な粒子であり，肺の奥深くまで入りやすく健康への影響が懸念されていることから，2009年に環境基準が制定された。

本県においても常時監視項目として，2011年度からPM2.5自動測定機を用いた観測を開始しているが，いずれの測定局においても2013年度までに環境基準は達成されていない。

そこで，2013年度の常時監視における質量濃度測定結果を用いて，本県におけるPM2.5の状況についての検討を行った。

その結果，県内各測定局のPM2.5の濃度は夏季が低く，秋季から春季にかけて高くなる傾向を示し，高濃度日においては煙霧やもや等の大気現象が観測されていることがわかった。

また，高濃度日における後方流跡線解析結果から，本県における高濃度事例は大陸からの越境汚染の影響が大きいと考えられた。

1 保健福祉部生活衛生課 2 保健福祉部薬務課 3 退職

第57回鹿児島県公衆衛生学会 誌上発表

薩南諸島のリケッチア症について

御供田睦代 岩元 由佳 中堂園文子
岩切 忠文¹ 福盛 順子² 藤田 博己³
山本 正悟⁴ 角坂 照貴⁵ 高橋 守⁶
川端 寛樹⁷ 本田 俊郎⁸ 坂元 修治⁹
蔵元 強² 北野 智一¹⁰ 矢野 浩二¹¹
藤田 信子³ 島崎 裕子¹² 門馬 直太¹³
安藤 匡子¹⁴ 高野 愛¹⁵ 矢野 泰弘¹⁶
糸川健太郎⁷ 田原 研司¹⁷ 及川陽三郎¹⁸
川森 文彦¹⁹ 大橋 典男²⁰ 高田 伸弘¹⁶
安藤 秀二⁷

第57回鹿児島県公衆衛生学会
平成27年 5月22日 鹿児島市

薩南諸島は，種子島や屋久島などからなる大隅諸島，その南部に位置するトカラ列島，奄美大島から与論島に至る奄美群島から構成される。

薩南諸島におけるリケッチア症は，1990年3月の徳之島における日本紅斑熱患者発生記録が最初である。

その後，つつが虫病が，2001年12月に大隅諸島の屋久島で1名，2001年~2004年にトカラ列島の口之島，中之島，諏訪之瀬島，悪石島で各1名発生している。日本紅斑熱は，奄美諸島の奄美大島で2006年~2013年に7名，徳之島で1990年~2011年に3名の発生となっている。

これらのリケッチア症の感染原因とされる媒介ダニ類と病原体リケッチアの検出を行うため，患者発生地域とその周辺地域での調査を厚生労働省科学研究費補助金事業により実施した。

1 南薩地域振興局 2 退職 3 馬原アカリ医学研究所
4 宮崎大学 5 愛知医科大学 6 埼玉医科大学
7 国立感染症研究所 8 県立大島病院 9 北薩地域振興局
10 宮崎県都城食肉衛生検査所 11 宮崎県立日南病院
12 長崎市保健環境試験所 13 福島県北保健福祉事務所
14 鹿児島大学共同獣医学部 15 山口大学共同獣医学部
16 福井大学医学部 17 島根県食肉衛生検査所
18 金沢医科大学 19 静岡県環境衛生科学研究所
20 静岡県立大学

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 研修会 基調講演

鹿児島県のSFTSの疫学

御供田睦代

重症熱性血小板減少症候群
(SFTS) 研修会
平成27年 6月18日 鹿児島市

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は、2009年に中国で原因不明のダニ媒介性疾患の患者が2,047名 (死亡129名) が報告され、2011年に初めて原因ウイルスが特定され「SFTSウイルス」と命名された。日本では、2013年1月30日に山口県で初めて患者が確認された。

2013年3月4日に感染症法の四類感染症に指定され、地方衛生研究所に検査試薬が配布された。

鹿児島県においては、2013年4月に第1例目の患者が発生し、2015年6月15日までに11例目の患者が報告されている。鹿児島県では、保健所を経由して行政検査として検査を実施している。2015年6月15日までに実施した49名のSFTS疑い患者の検体別検出状況や陽性者と陰性者の患者状況の違いなど疫学的解析を行った。

また、鹿児島県では、つつが虫病や日本紅斑熱とSFTSの発生時期や症状等が重なることなど報告した。

第41回九州衛生環境技術協議会 口頭発表

鹿児島県におけるマダニのSFTSウイルス保有状況等に関する調査研究

岩元 由佳 山本 真実 中堂園文子
穂積 和佳 石谷 完二 御供田睦代

第41回九州衛生環境技術協議会
平成27年10月 8日 熊本市

SFTS (重症熱性血小板減少症候群) は、2011年度に初めて特定された新しいウイルスによるダニ媒介性感染症である。当センターでは県内におけるSFTSウイルス保有状況等の調査研究を2014年度から3年計画で実施している。

2014年度は、2属10種類3118匹のマダニを採集した。県内では1年を通してマダニが採集された。また、SFTSウイルス遺伝子検出に関しては、1040検体の検査を実施し、2属5種類のマダニ20検体が陽性となり、陽性率は1.9%であった。

マダニの季節の消長やSFTSウイルス分布状況等を把握するためには、さらなる調査データの蓄積が必要であるため、今後も引き続き調査を継続する。

食中毒疑い事例から検出した *Kudoa iwatai* の一事例

中堂園文子 穂積 和佳 岩元 由佳
山本 真実 石谷 完二 御供田睦代

第41回九州衛生環境技術協議会
平成27年10月 8日 熊本市

(内容は第57回鹿児島県公衆衛生学会と同じ)

天然魚及び養殖魚からのヒドロコルチゾン検出事例について

清川 由樹

第41回九州衛生環境技術協議会
平成27年10月 8日 熊本市

ヒドロコルチゾン (以下「HC」という。) は動物用医薬品である一方、ホルモンの一種であるため、食品衛生法において通常含まれる量までの食品への残留が認められている。2013年度、養殖魚のHC含有量を測定したところ、複数の検体から一律基準値 (0.01ppm) を超えてHCが検出され、調査の結果、生体内物質であることが示唆された。そのためHCが通常どの程度含まれているか把握する目的で、天然魚におけるHC含有量についても調査を実施した。

天然魚27検体中8検体から一律基準を超えてHCが検出され、最大値は0.045ppmであった。そのため、天然に存在する状態でも一律基準を超過する可能性があることが

明らかになった。また、魚種や個体、重量によってもHC含有量は大きく異なることが示唆された。

なお、すべての魚種について試験法の妥当性評価試験を実施し、妥当性を確認している。

第74回日本公衆衛生学会

食中毒疑い事例から検出した*Kudoa iwatai*の一事例

中堂園文子 御供田睦代 西 宣行

第74回日本公衆衛生学会
平成27年11月 5日 長崎市

(内容は第57回鹿児島県公衆衛生学会と同じ)

HIV研修会 口頭発表

HIV検査について

山本 真実

HIV研修会
平成27年11月20日 鹿児島市

全国の2014年のHIV感染者報告数は1,091件、エイズ患者報告数は455件であった。両者を合わせた新規報告件数は1,546件で、2007年以降、年間1,500件前後の報告が続いている。鹿児島県の2014年のHIV感染者報告数は7件、エイズ患者報告数は5件であり、同新規報告件数は10数件で推移している。

鹿児島県のエイズ予防事業である「保健所におけるエイズ対策実施要領」に基づいて相談及び検査が実施され、2013, 2014年における保健所でのHIV抗体検査件数は、約1,300件と増加している。

保健所で迅速検査としてイムノクロマト法を実施し、判定保留(要確認検査)となった場合に、当センターに検体が搬入され、ゼラチン粒子凝集法による追加検査及びウエスタンブロット法による確認検査を行っている。

今回、当センターにおいて追加・確認検査を実施し、2008年度及び2015年度に経験した感染初期事例2例について説明した。

公開市民セミナーならびに第1回班会議 口頭発表

鹿児島県におけるヒトのSFTSウイルス抗体保有状況について

御供田睦代 西 宣行 西 順一郎¹
三谷 惟章² 福田 弘志³ 福士 秀悦⁴
西條 政幸⁴ 調 恒明⁵

公開市民セミナーならびに
第1回班会議
平成27年12月 5日 山口市

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)は、2011年に初めて確認された新しいウイルス感染症で、主にそのウイルスを持っているマダニに刺されることによって引き起こされる。主な症状としては、マダニに刺されてから6日～2週間後に、発熱や嘔吐、下痢などの消化器症状が現れ重症化すると死亡することもある。

鹿児島県においては、2013年4月に第1例目の患者が発生し、2016年2月8日までに15名の患者が発生し5名が死亡している。

2013年度から2015年度の厚生労働科学研究費補助金研究事業の「SFTSの制圧に向けた総合的研究」(研究代表者:倉田毅)の研究分担として「SFTSの調査研究における国内ネットワークの在り方に関する研究」(分担研究者:調恒明)の研究班に属し、2015年度に鹿児島県におけるヒトのSFTSウイルス抗体保有状況について調査を行ったので報告した。

- 1 鹿児島大学大学院
- 2 退職
- 3 南大隅町立佐多診療所
- 4 国立感染症研究所
- 5 山口県環境保健センター

新型インフルエンザ研修会 口頭発表

新型インフルエンザ検体採取と搬送について

御供田 睦代

〔 新型インフルエンザ研修会
平成27年12月18日 鹿児島市 〕

新型インフルエンザの検査については、厚生労働省、国立感染症研究所、検疫所及び県健康増進課、保健所、医療機関との連携を図り実施している。検査体制について説明し、検体採取の物品及び個人防護具（PPE）の適正な装着、臨床検体の種類と採取時期などについて説明した。検体が保健所から搬送されて当センターに到着し、検査結果がでるまでの課程を説明し、今後の体制と連携を図った。

SFTSウイルス抗体保有調査研究報告会 口頭発表

鹿児島県におけるヒトのSFTSウイルス抗体保有状況について

御供田睦代 西 宣行 西 順一郎¹
三谷 惟章² 福田 弘志³ 福士 秀悦⁴
西條 政幸⁴ 調 恒明⁵

〔 SFTSウイルス抗体保有調査研究報告会
平成28年 3月 8日 鹿児島市 〕

(内容は公開市民セミナーならびに第1回班会議と同じ)

鹿児島県におけるマダニのSFTSウイルス保有状況調査について

岩元 由佳

〔 SFTSウイルス抗体保有調査研究報告会
平成28年 3月 8日 鹿児島市 〕

(内容は第41回九州衛生環境技術協議会と同じ)